

**kuroneko
die schwarze katz'
the black cat**

猫のことはやはり猫でなくては分からぬ。
夏目漱石

夜の東京にネオンカラーの目をニヤニヤさせた猫が現れる。

かつて長靴を履いていた猫は長靴を捨て、今では街中にエンジン音を響かせKURONEKOの御用を務める。

バスルームでうちの黒猫が私を見つめていた。ふと、自分が裸なのに気がつく。
「おまえのその艶やかで着心地の良さそうな毛皮は何処で手に入れたの？」

光沢の無い黒・スベスベな黒・ツヤツヤな黒・ピロードのような黒・深みのある黒・純粹黒・
・
エドウィナの黒猫は、黒の反乱。

「あなたの黒い本音を言ってみて！」